

新規事業採択時評価結果（平成20年度新規事業化箇所）

事業の概要

事業名	一般国道151号一宮バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	愛知県
起終点	自：愛知県新城市川田 至：愛知県豊川市麻生田町	延長	7.9 km		
事業概要					
一般国道151号は、長野県飯田市を起点とし新城市、豊川市を経て愛知県豊橋市に至る延長約137kmの主要幹線道路である。一宮バイパスは東三河北部（奥三河）山間地域と東三河南部市街地域を結ぶ救急医療ネットワークの支援を目的とした延長7.9kmの4車線バイパスである。					
事業の目的、必要性					
一般国道151号は、東三河北部地域と南部地域を結ぶ基幹道路として、広域医療活動において重要な役割を担っているが、事業箇所では豊川市の中心市街地を縦断的に通過するため、通過交通と域内交通が輻輳し著しく交通渋滞を引き起こし、緊急車両の通行に支障を及ぼしている。このため、バイパスを設置することにより円滑な交通を確保し、広域的な医療・福祉サービスを支援するものである。					
全体事業費	243億円		計画交通量	26,000台/日	
事業概要図					

関係する地方公共団体等の意見

国道151号の一宮バイパスは、渋滞の著しい現道の交通渋滞緩和や東三河地域の広域医療ネットワークの強化に重要な役割を果たすことが期待されており、地元2市で構成される国道151号一宮バイパス建設促進期成同盟会から平成19年11月に早期整備の要望を受けている。

事業採択の前提条件

費用対便益：便益が費用を上回っている
手続きの完了：都市計画決定済み

担当課：道路局 国道・防災課
担当課長名：下保 修

事業評価結果

費用対便益	B/C	5.0	総費用 177億円 （事業費：171億円 維持管理費：5.6億円）	総便益 892億円 （走行時間短縮便益：806億円 走行費用減少便益：36億円 交通事故減少便益：50億円）	基準年 平成19年	
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=4.5 (交通量 -10%)	B/C=5.5 (交通量 +10%)		
		事業費変動	B/C=5.6 (事業費 -10%)	B/C=4.6 (事業費 +10%)		
		事業期間変動	B/C=5.2 (事業期間 -20%)	B/C=5.0 (事業期間 +20%)		
事業の影響	自動車や歩行者への影響	評価項目	評価			根拠
		渋滞対策	◎	事業実施により現道の渋滞を緩和する 【渋滞損失時間の改善】113万人時間/年（463万人時間/年から351万人時間/年に改善） 【1kmあたり（台kmあたり）渋滞損失時間】 約26万人時間/年・km（現況） 【渋滞優先度明示曲線】愛知県内センサス区間の上位1割に含まれる。		
		事故対策	○	現道の安全性が向上する 【死傷事故率】 約366件/億台km（女子角交差点） 愛知県平均：約100件/億台km 【死亡事故】 H14～H17に1件の死亡事故が発生		
	歩行空間	○	バイパス整備により現道の通過交通が分離され、通学路の安全が確保される。			
	社会全体への影響	住民生活	◎	東三河地域の広域医療活動を支える医療ネットワークを強化する。		
		地域経済	◎	奥三河地域および本地域に立地する一宮地区工業用地（仮称）から重要港湾三河港や東名高速道路豊川ICへのアクセス強化が図られ、地域経済の活性化が期待される。		
災害		○	国道151号は第一次緊急輸送道路に指定されているが、バイパスの整備により、ネットワークのさらなる強化が図られる。			
環境	○	CO ₂ 排出量の削減量：3,651t-CO ₂ /年				
地域社会	○	隣接地域の道路事業と連携した道路網の整備を行うことで、東三河縦貫道路建設促進期成同盟会が提唱する「東三河1時間交通圏」の確立に資する。				
事業実施環境	-	注目すべき影響はない				

採択の理由

便益が費用を上回っているとともに、都市計画手続きが完了していることから事業採択の前提条件が確認できる。また、事業実施により事業箇所を含む地域の医療ネットワークの強化、渋滞損失時間の改善、災害時におけるネットワークの強化等の必要性・効果が高いと判断できる。以上より、本事業を採択した。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。